

# 神戸山王まつりとふるさと学習

神戸町教育委員会

## 1. はじめに

神戸町は、教育大綱の目標を、「郷土愛と創造性をはぐくむ心豊かなひとづくり」とし、感動と活力のある教育を推進し、郷土を愛し心身ともに健康で創造性豊かなひとづくりを推進しています。各学校において、特色ある教育として、ふるさと学習に取り組んでいますが、神戸町教育委員会として進めている、神戸山王まつりを柱としたふるさと学習について紹介します。



## 2. 郷土愛をはぐくむ教育 ～各小学校におけるふるさと学習～

神戸町内には小学校が4つ、中学校が1つあります。神戸小学校、下宮小学校、南平野小学校は、今年度創立150周年を迎え、各校、地域住民の協力を得て、特色ある記念事業を実施しました。それぞれの記念事業を通して、子どもたちは、地域の方とつながり、学校への愛着を深めました。また、各学校においては、次のようなふるさと学習を進めています。

- ・神戸小学校 神戸山王太鼓、少年消防クラブ
- ・下宮小学校 農業体験、特産物調べ、地元につながる柳瀬打囃子
- ・南平野小学校 日比野五鳳、神戸はかせクラブ、ハリヨの飼育
- ・北小学校 歴史を学ぶ昔話調べ

どの活動も、地域の方との交流を通し、地域人材を生かした学びとなっています。また、町内の文化財を見学する校外学習では、町のボランティアガイドを活用し、その文化財についてより深く知るだけでなく、地域に生きる人々の思いに触れ、学びを深めています。



## 3. 神戸山王まつりについて

神戸町には、平安末期に始まったと伝えられる神戸山王まつりがあります。この祭りは、近江坂本の日吉大社が起源とされる神戸町の日吉神社の例祭であり、国内でもまれな勇壮かつ豪快な火祭りとして知られています。今年度は、実に4年ぶりとなりましたが、4月29、30の両日にわたって盛大に開催されました。この祭りのハイライトは、若い衆に担がれた7基の神輿が、多くの松明に照らされながら、琵琶湖に見立てた川を駆け抜ける朝渡御です。久しぶりに行われた朝渡りに、生憎の雨でしたが、集まったたくさん見物客から大きな歓声が上がっていました。



#### 4. 末永く祭りを守り続けるために

神戸町では県の重要無形民俗文化財である神戸山王まつりを、末永く後世に継承していくことを目的として、神輿の形状、構造及び神事も含めた祭りの流れ等を正確に記録保存し、かつ、祭りを町全体で盛り上げつつ、その担い手を確保するために、神戸町文化遺産活用推進事業を実施しています。実施に当たっては日吉神社、氏子会及び地元の皆様の協力の下、文化庁、県のご支援もいただきながら、継続的に講演会やワークショップを開催するなど、様々な取組を行っています。

#### 5. 町内小中学校における、山王まつりを柱としたふるさと学習の取組

町内小中学校では、この神戸町の宝とでもいべき神戸山王まつりをふるさと学習の柱として取り上げています。昨年度3月に神戸中学校、今年度4月に町内4小学校すべてで、氏子会の皆さんによる祭りの紹介、説明を行うとともに、実際に神輿担ぎを子どもたちに体験してもらいました。神戸山王まつりでは、神輿の担ぎ手が走りながら入れ替わるという大変珍しく、かつ、難しい担ぎ方をしますが、それを実際に児童生徒に模擬神輿で体験してもらいました。

体験会を終えた子どもたちからは、「自分の町にこんな歴史あるお祭りがあるなんて誇りに思う。」「お祭りに参加して是非おみこしを担ぎたい。」「こんなお祭りが現代まで受け継がれていてすごい。」「祭りの伝統を守っていきたい。」といった、嬉しい感想が聞かれました。

4年ぶりに行われた山王まつりでは、これまで参加したことがなかった子どもたちが参加したり、教職員が神輿の担ぎ手になって祭りを盛り上げたりしました。事前に祭りについて学び、神輿の体験をし、機運を盛り上げて当日を迎えたことは、大変効果的でした。



#### 6. ふるさと学習の意義

地方自治体や学校にとって、ふるさと学習は子どもたちの愛郷心を育み、高校、大学卒業後もできれば地元に残ってほしい、仮にいったん故郷を離れても将来戻ってきて活躍して欲しいという願いが込められています。他方子どもたちにとっても、自分たちの町にはこんな素晴らしい誇るべき伝統あるのだと、自信をもってこれからの人生を歩んでいってくれるのではないかと思います。さらに、ふるさと学習は、自分に関心のある事項について深く学ぶという、自発的な学習習慣を身に付ける一助となり、他の教科学習にも良い影響をもたらすのではないかと期待されます。ふるさとを愛し、心身ともに健康で感性豊かな子どもとして成長していってくれるよう、今後もより一層ふるさと学習を充実させていきたいと考えています。